

## ユビキタスからイマメントへ (実習の進捗発表)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 伶哉, 天谷, 武琉, 今井, 里穂, 奥田, 将平 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/00027431">http://hdl.handle.net/10297/00027431</a>

### ユビキタスからイマメントへ

鈴木侖哉(情報科学科), 天谷武琉(情報科学科), 今井里穂(情報科学科), 奥田将平(情報社会学科)

インターネットが生活に定着して約 20 年, それらが無い生活を知らない世代も多く活躍する現代はユビキタス社会と呼ばれ, 生活に欠かせないものになっている。情報社会は今後どうなるのか。我々は, ユビキタス社会がさらに発展した社会を「イマメント社会」と定義し, 予測することで 20 年後を読み解くことにした。我々の定義するイマメント社会とは, immanent (内在する) を由来とする「情報量の増大した通信を, 人間の内部デバイスを介すことで実現する通信技術により, 今までの社会形態が大きく変化し人々の生活がより豊かになった社会」を示す。これは「人間拡張工学」(稲見昌彦ら, 2018) の考えに近いものがあるとも考える。ここで重要なことは情報量の爆発的な増加であり, それを利用/活用するために人々がデバイスを体内に埋め込むことになると予測する。

(学習マネジメント,担当教員:宮崎真)